

分考通信

第十四号

2018年3月号

その2

文責
中伸一



Y・A



3月1日 卒業式

今年の卒業式は前日の荒天の影響で当日JＲが遅れ、本校の卒業式と分校の卒業式が2時間ずれることになりました。予定を変更して送る会を先に始めることになりました。例年と違うことを心配しましたが、実施してみればこれも中々良い流れとなりました。

予定通り15...30より開始しました。庄田校長が式辞の中で、「地域との交流を分校の皆さんが前向きに取り組んでくれていきます。その事が伝統となってきています。」との言葉が私には褒め言葉のように聞こえました。3年生代表の井谷湖々音さんが答辞を穏やかに朗読しました。答辞の最後に「いつまでも分校が、母校であることを願います。」との言葉がたいへん印象に残りました。



分校だからこそ

私は勉強が嫌いでした。勉強を楽しんだことではなく、そんな勉強から逃げていました。大学を受験すると決めてからも、勉強へのイヤさ加減は無くなりませんでした。こんな私を分校の環境が変えてくれました。

毎日 放課後、そして春休み、夏休み、冬休みに先生方に補習をしていただいたおかげで、私は少しずつ生物や英語、国語が理解できるようになりました。そして、分かることの楽しさに気づくことができました。

私は、今まで勉強をしてこなかったから、楽しさに気づかなかったのです。そんな私が勉強をしているうちに、どんどん疑問が湧いてきてその疑問が解けた時、少しずつ自信が付いてきて賢くなったような気分になりました。そして、以前の自分には戻りたくなくなりま

した。私の高校生活最後の一年間は、とても充実したものでなりました。私は受験勉強を機に変わることができました。イヤイヤでしていた勉強も今では楽しくできるようになりました。

十月には公募推薦に合格しました。そして、それ以上に頑張った一般入試も受かることができたことはとても嬉しかったです。

分校で学び身に付いたことを、これからの生活に活かし頑張っていきたいです

「分考通信」を振り返って

中伸一

「分考通信」も十四号となります。アンケートをお願いした方々に「分考通信」を可能な限り配布しました。載せている写真は有田川町清水水行政局安諦出張所内の様子です(理容モリタ二さんでも掲示してくれていました)。そこに「分考通信」を掲示してくれていたことが、とても嬉しい気持ちになり載せてみました。

「分考通信」の記事を振り返りながらまとめてみたいと思います。まず「地域課題を考える」というテーマで、生徒減に伴って、地域の方々が分校をどう考えているのか?このアンケートをお願いしました。ちょうど百名の方々から回答をもらいました。アンケートで印象に残るコメントは、楽しく、肩組んで、行事に協力する。「70代 男性」、「みんな行ったら行こうと思った(分校に)。継続して欲しい。」「10代 女性」、「校舎を造るとき、『ここに高校があるんや!』とゆうて高校が出来た。『』になるまでやりきる。」「50代 男性」など書ききれないほどの分校への意見や地域への要望がありました。またそれに答えるように在校生が、もっとアンケートを取って聞いてみたい「分校への期待に応える」清水の役に立ちたい「など意見表明がされました。

後半は校内外の行事体験や講演集会報告となっています。まず文化祭ではダンスの音響照明のセッティングを地域の方々準備して頂きました。その豪華なセッティングに応えるように生徒達も自分たちの成果を思う存分発揮できました。『みずふるさとまつり』では模擬店に出品しました。熱鶏は惜しくも2位ということで、優勝を逃しましたが生徒だけでなく教員も必死になって取り組みました。その中で何となく生徒・地域・職員のつながりが深まったように思いました。その他にも数え切れないほどの行事参加がありました。そのことを「分考通信」を通して詳しく示せたことに意義があったと思えました。講演集会については、分校の様子を発信し、講演等で聞き及んだことを学校地域に繁栄させたいと思えました。

いろんな活動報告を振り返って見て、少しか分校の様子を地域の方々に知ってもらいました。生徒達も地域のことや学校の現状を知る分かる機会となりました。今後もこのような活動を続け、分校地域を自分たちの目線でアピールすることの大切さを感じました。

「分考通信」は来年度から分校ホームページに載せることを報告して終わりにします。

